

久美浜中学校同窓会報

京丹後市立久美浜中学校同窓会

第5号

〒629-3405 京都府京丹後市久美浜町640番地 TEL(0772)82-0079 FAX(0772)82-1650
http://www.kyoto-be.ne.jp/kumihama-jhs/ E-mail:kumihama-jhs@kyoto-be.ne.jp



ご挨拶



同窓会長
清水 義夫

会員の皆様のご協力でご報告五号をお届けすることができました。

本会の活動は、会員相互の連携を強めることを始めとして、在校生の活動を側面的に支援し、少しでも伸び伸びと学習やスポーツに打ち込める教育環境づくりを進めることであると考えています。

中学校の再配置が行われて、五年が経過しました。教育現場も大きく様変わりし、保・小・中一貫教育に取り組みられるようになりました。

そんな中で子ども達の感性は素晴らしく、今年の体育祭では奇抜なプログラムで特色を出すなど、実に生き生きと仲良く一生懸命頑張っている様子が伝わり、嬉しく思います。今後もこの活動を充実させ、卒業生が故郷へ戻って活躍し、地域の発展のために大いに頑張ってくれる環境づくりに努めたいと思います。

しかしながら、収益事業のない本会では、活動の源となる財源が不足し、活動そのものが困難です。皆様のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。会員の皆様のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。

ご挨拶



学校長
川戸 智司行

今年四月から、松田正夫校長の後任としてお世話になっております。久美浜はとても自然豊かな校区で、保護者や地域の皆様に温かく支えていただき、生徒と教職員が丸となった教育活動を展開している本校に勤務させていただき、大変うれしく思っています。

新生「久美浜中学校」は六年目「久美浜学園」の小中一貫教育は全面実施三年目を迎えました。久美浜学園の教育目標は「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根強く努力する子どもの育成」であり、指導の重点を学力向上としていきます。本校においては、学園の目標達成に向けて、「命・今・仲間を大切に、当たり前」が当たり前にできる学校づくりを本年度も引き続き進めています。

本年度の生徒会は、「開花咲かせよう個々の魅力を」とをスローガンに掲げ、「自分から進んで挨拶ができる」「部活動や勉強など何事も一生懸命できる」といった目標の達成に向けて取組を進めています。合唱祭や体育祭では全生徒が心を一つに一生懸命取り組み、成功裏に終えることができました。部活動でも各種大会で好成績を上げています。

理事会報告

五月二十九日、平成三十年度理事会を開催し、平成二十九年度決算報告及び平成三十年度事業計画・予算の承認をしていただきました。

決算報告では、同窓会発足時に確認できなかった定期貯金が発見され、平成二十九年度繰越金は約九十四万六千円になりました。しかし、毎年必要となる事業費の確保は難しく、財政は厳しくなっています。従って本格的に賛助金をお願いをすることが確認されました。



学園6年生の合唱祭参観

また平成二十九年度の活動として学校支援事業の外部支援として、行及び同窓会員であり、日進製作所代表取締役社長の前田昌則氏をお迎えして、第二回ふるさと講演会を開

同窓会の皆様には、日頃より物心両面において格別の御支援、御協力をお願いしています。地域では、各団体の活動を通して子どもたちの健全育成にお力添えをいただいています。本校では、地域と連携し「久美浜を支える人づくり」に向けて、生徒が地域に出かけ、歴史・文化・自然・産業・福祉等を地域の方々と学ぶ学習を展開しています。今後とも、同窓会の皆様の御支援・御協力をよろしくお願いたします。

「賛助金」のお願い

平素から本同窓会活動にご理解ご協力を賜り有難うございます。さて、中学校再配置から六年を経過しようとしています。この間生徒達も伸び伸びと勉学やスポーツに勤しみ、着実にその成果を発揮しています。

同窓会では、微力ながらその活動を少しでも支えようと物心両面で支援させていただきます。学校からもその支援が生徒にとっても励みになっているとお聞きしています。本市では、久美浜中学校だけが再配置後も同窓会を継続し、将来を担う子供達のために微力ながら物心両面で支援しています。しかしながら、活動の財源は卒業時の会費がほとんどとなっています。この貴重な財源も支出超過で年々減少しています。この状況を打開するために、この度広く「賛助金」(一〇千円)のお願いをして、子どもたちの勉学やスポーツの活動を支援していきたく考えています。

なにとぞ趣旨をご理解いただきご協力をよろしくお願申し上げます。

郵便振替口座 (振込手数料130円が必要です)

・口座記号番号
「00910-2-274447」
・口座名称
「京丹後市立久美浜中学校同窓会」

通信欄に(〒)住所・氏名・電話番号をご記入ください。

そうだ みんなで学校へ行こう

ふるさと講演会

日時:平成30年11月17日(土) 午後1時30分~(1時開場)
会場:久美浜中学校(体育館)
講師:元久美浜町長 吉岡 光 義氏
同窓会では昨年に次ぐ第3弾として計画、多数の皆様のご参加をお願いします

演題 「おじいさんからの贈りもの」

わが人生をふり返って ~ハーモニカの音色にのせて~
吉岡さんは、教育支援活動から福祉活動まで多岐に亘り積極的に活躍されています。しかも、活動のフィールドは国内にとどまらず国外へも広がり、常に優しいまなざしで活動されています。



「アトリエ・ふなごや」にて

【講師プロフィール】
昭和22(1947)年 京都府久美浜町生まれ
昭和38年 久美浜中学校分校卒業
昭和41年 峰山高等学校卒業
昭和54年 久美浜町議会議員当選
平成4年~ ネパール学資里親「ラト/パールの会」設立代表に就任、活動の中で現地に学校を建設
平成9年 第5代久美浜町長に就任
平成16年 市町村合併により町長退任
平成19年 選任名「ふなごや吉兵衛」
以後、絵画とハーモニカに挑戦
平成28年 東京青山表参道「桃林堂画廊」個展開催
平成29年 「旭日双光輝」受章(春の叙勲)
平成29年~ タイ、チェンライの子供たちへ学資支援開始

主催:久美浜中学校同窓会 後援:久美浜中学校PTA

久美浜湾から世界の海へ

元・商船三井(株) 船長

安達 直



私は、久美浜町十楽で1953年(昭28)に生誕、唱歌の「我は海の子」故郷の詩情漂う久美の浦に遊び育った。この永久に美しい浜を歌った「久美浜音頭」の情操を町民として共有したい。四季山海の食材に恵まれ、多くの古墳が証す古代からの安楽地とされる。東に兜山、西に如意寺嶽、北に大明神岬、奥に日間の松原で創出された久美浜湾の絶景は山陰海岸国立公園の要衝となっている。

昭和四十年に入学した。日間の松原遠く見て、ああ麗しの我が母校。旧・久美浜中学校は浜公園に在った。ここで内海と櫓権舟を知ったが、外海は「こやあとこらだ」と教えられ井の中イノナカに甘んじた。やがて蛙は大

海に飛び出す外航船長に憧れ、近所の同級生二人は久美の素養を得たのか美術の世界に進んだ。日本海から七つの海を航海して多くの人種、風土、文化を興味深く観察しながらも、気が付けば久美浜と比べていた。唯一無二なる久美浜の存続は、里山から浦海を経て日本海へ循環する自然環境のバランスあればこそであり、その保全は町民の重要な義務である。

久美浜の穏やかで美しい風情は、多忙な日々を送る人々のオアシスであり「あれもこれこれもしちらあか！」と帰省しても「まあ、ゆつくりしたらえからあで」と、日がな一日のんびり過ごしてしまおう。これぞ故郷マジック!!

♪志を果たしていつの日にか帰らん、山は碧き故郷、水は清き故郷♪故郷に恩返ししたい。



兜山、その風景の欠片

日本工芸会正会員 陶芸家

浅田 尚道



「兜山」、久美浜の誰もが知っている山だ。その山に住み、その土で、「ちやわんや土器を焼いとななる人がおんなるだつて」、「何だ知らんけど、トীগーとかいうゲージツらしいで」、「知らんなあ、大体あんな所に、人なんか居るんか」と噂を聞いたことのある人もおられるでしょう。ここ久美浜では「陶芸」などと芸術めいた言葉は通用しない。残念ながら全くもって理解はないのだが、実際のところ芸術などは日常に全く役には立たない。人生の折節せせつにふと目を留めて、心を豊かにしたり、浄化したりするものなのだが、たとえそうであったとしても、ここ久美浜では、さほど必要のないものとも思わぬ。

それは、ここには、人が意識するしないにかかわらず、美しい緑の山々、豊かな水を湛えた青い海が目の前に広がる。ここに住むだけで心は豊かで浄化されている。それで充分なのだ。

兜山は、あちこちに小さな穴が掘ってある。遠足に来る子らは、久美浜の遺伝子がそうさせるのか、必ず途中で穴を掘って水晶を探す。この山は何億万年も前、水晶を創った。その岩が風化して土となり、より固い水晶が土の中から現れる。子ども達が指先をちびらせて、夢中になって見つけた水晶の欠片は、何の役にも立たなかったらうが、記憶のポケットの片隅に大事に取ってあるだろう。

そんな小さな宝物を探すようなことをこの兜山で、遠い過去の土の記憶に、今ここに生きる私の記憶を足してゆき、結晶の欠片のような壺を創りつづけている。久美浜の誰もが大事に思う山、兜山。日頃の無作法をお許し頂き、この愛すべき故郷の風景の一欠片として記憶頂ければ幸いです。

学校だより

久美浜学園 小中一貫教育より

久美浜学園は、久美浜にある一中学校、三小学校、三保育所園の総称です。小中一貫教育は、小学校入学時から中学校卒業までの義務教育九年間、加えて保育所園の時期の教育を一体のものとして、統一的で一貫性のある教育を進めていこうというものです。「目指す子ども像」や「教育目標」を共有して進めていきます。

今年度で、三年目となり、学力向上を重点目標にし、様々な取組の充実を目指しています。二学期までに取組まれたものの中から、合唱祭と部活動体験の取組を紹介します。

六月九日に中学校の合唱祭が行われました。中学生は、学級ごとにほぼ二週間の期間で、質の高い合唱と学級のまとまりを目指して一生懸命練習します。その取組の過程で多くのドラマが生まれます。そして合唱祭当日に、学園の小学校六年生を全



吹奏楽部演奏会 (かぶと山こども園)

員招待します。体育館の最前列に席を設けてもらい、緊張の中でも、中学生の迫力のある合唱を鑑賞します。一年後入学して、目指す自分たちの姿として、たくさんの方を学んでいきます。「小学校と雰囲気全然違って、みんなが一つになって歌っているのが伝わってきました。」「来年は私も歌うのかなと思いましたが聞いていたら、ドキドキしました。」などの感想を書いてくれました。

八月七日には、小学生の部活動体験の取組が行われました。七月の夏季総合体育大会等で多くの成果を残した三年生が引退し、二年生が中心となって進めた取組です。六年生の子もたちが、それぞれ希望する部に参加し、中学校の部活動を体験します。雨天のことも考え、中学校だけではなく三々四々場で行います。ほとんどが初心者なので、球技であれば、ボールの扱いからラケットなどの持ち方など、中学生が丁寧にやさしく関わり基礎から教えていきます。午前中の短い時間ですが、カヌーに乗ったり、楽器を演奏したり、中学生とリレーをしたり、いろいろなことができるようになって帰って行きます。

その他、吹奏楽部が、夏のサマーコンサートでこども園に行つて演奏会をし、園児との交流をしました。また、秋には、中学生の職場体験学習で保育所園に二日間行かせてもらいます。その後の保育所園の運動会にボランティアとして参加したりすることもあります。

小中一貫教育は、中学生にとっても、小学校や保育所園との活動を広げ、子どもたちとのた



部活動体験 (女子テニス部)

さんの関わりを生み出す機会となっています。また、頑張っている自分の姿を、久美浜で共につづいて見せなくてはならない、そんな場を与える取組でもあります。久美浜の子どもたちが、関わり合いながら育つ、そんな環境を創り出すのが小中一貫教育です。今後とも、同窓会員様の久美浜学園へのご支援をよろしくお願ひします。(M)

◆編集後記

新生「久美浜中学校」校歌の作詞者、青森県の工藤和久さんは、「久美の浦の陽に映えて潮風歌うよ松林」と久美浜湾を、「緑織りなす高龍寺四季の彩り夢語る」と高龍寺ヶ岳を歌い、久美浜の豊かな自然と風土を愛でておられます。また、同窓会報やふるさと講演会では、同窓生の山崎淳さんに丹後のズワイガニの話や、和田達典さんに湊の定置網の話をお願ひし、今回は兜山の陶芸家浅田尚道さんと、タンカー元船長の安達直さんに寄稿していただきました。十一月には九子舟作りの匠、元久美浜町長の吉岡光義さんの講演が予定されています。

私たちの人生は、故郷久美浜といろいろ関わっているようです。次回は、高くそびえる高龍寺ヶ岳の思い出はいかがでしょうか。(N)